

よがらす
夜鳥



あかとき
よがらすな
暁と夜鳥鳴けどこの山の
やま

こぬれ
うえ
木末の上は いまだ静けし

卷七―一二六三 作者未詳

歌意 暁だといって夜鳥がな
くけれども、この峰の木末の
上はまだ百鳥は囀りませんも
のを。

暁はまだ日の出前。まだ早い
といって男を引き止める女の
歌。

この夜鳥は多くの注釈書では
カラスと説明されていますが、
これはカラスでなくゴイサギ。

カラスが鳴き始めるのは夜が
白々と明けてくるころーあけぼ
のーであり、それ以前まだ暗い
時ーあかつきーには鳴かない
し、夜中にも鳴きません。ゴイサ
ギは夜行性で夕方から活動し夜
明け前に塹に帰ります。

数羽で飛びながらクワーと鳴
く。万葉集の時代は夜鳥とよば
れていて平安時代の今昔物語か
ら五位鸞といわれるようになり
ました。